

---

# 平成28年度第2四半期 決算説明会資料

---

平成28年11月7日

# 日新製鋼株式会社

# 当社の状況

---



# 業績の状況

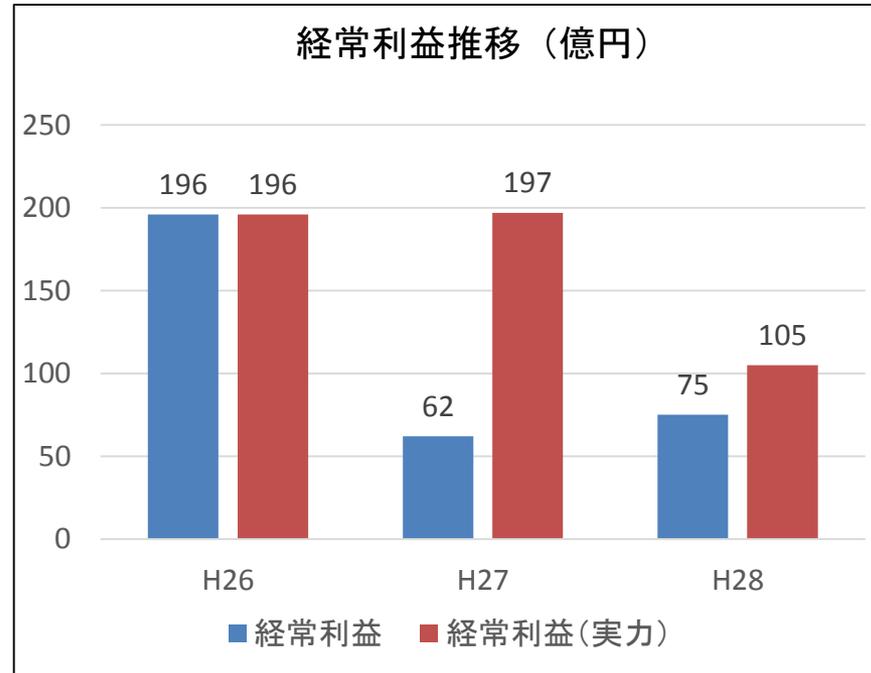
## 経営環境

- ✓ 国内では、鋼材在庫の水準が前年度比で低下し、需要家の持ち直し感などが見られるなど、緩やかに回復基調が進展
- ✓ 海外では、依然として中国の過剰生産等に起因する厳しい需給環境が継続

## 当期の業績

- ✓ 原料炭の急激な高騰や価格転嫁の時期ズレ等により、通期の実力ベース経常利益は105億円となる見通し（対前期 ▲92億円）。

経常利益推移（億円）



(億円)

	H26年度			H27年度			H28年度(見通し)		
	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	計
販売数量(万t)	192	189	381	175	183	358	176	182	358
売上高	3,108	3,067	6,175	2,767	2,703	5,470	2,517	2,643	5,160
経常利益	83	113	196	54	8	62	10	65	75
在庫評価	10	▲ 10	0	▲ 50	▲ 85	▲ 135	▲ 60	30	▲ 30
経常利益(実力)	73	123	196	104	93	197	70	35	105

# 24号中計の進捗状況

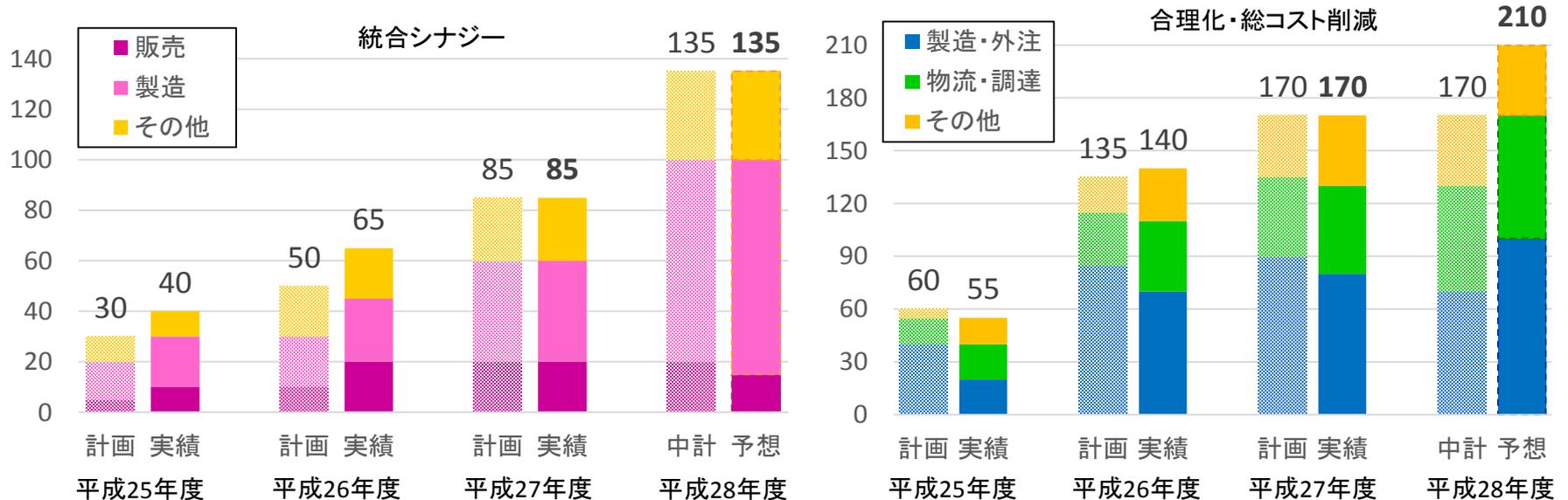
## 統合シナジーと合理化・総コスト削減プロジェクトの進展

### ◇ 統合シナジー

- ・ 4月公表値(累計125億円)に対して10億円上積みとなる累計135億円を達成し、中計目標に到達する見込み
- ・ 厳しい事業環境の中、数量減などの影響があるものの、新製鋼稼動・生産集約により着実にシナジーを発現

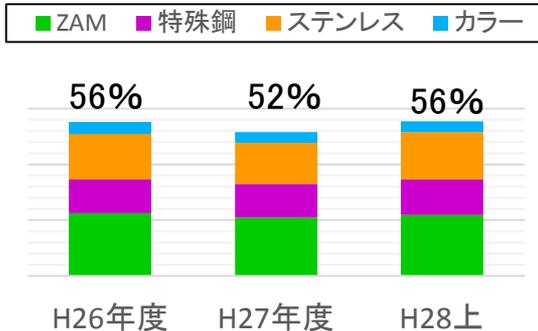
### ◇ 合理化・総コスト削減プロジェクト

- ・ 中計目標170億円を大きく超過し、累計210億円の合理化・総コスト削減を達成する見込み
- ・ 製造・外注・物流・調達等、当社グループ全体で合理化・総コスト削減活動を推進

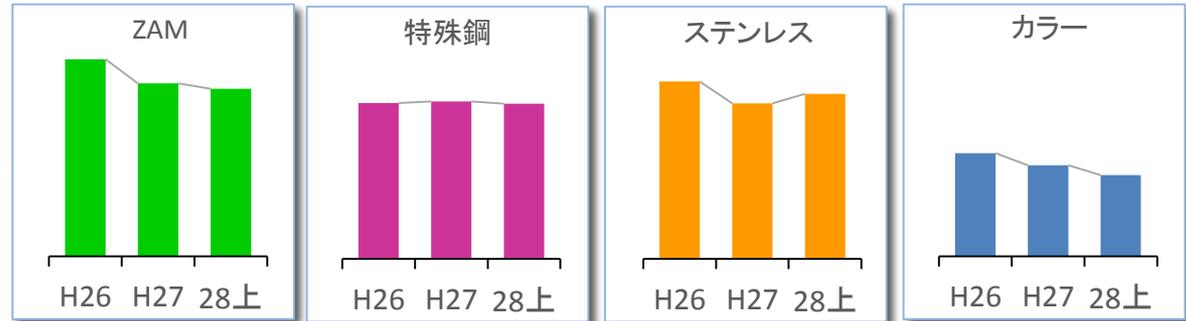


# 24号中計の進捗状況

## コア製品比率



各コア製品の推移(数量ベース)



## 新規事業の創出と市場展開

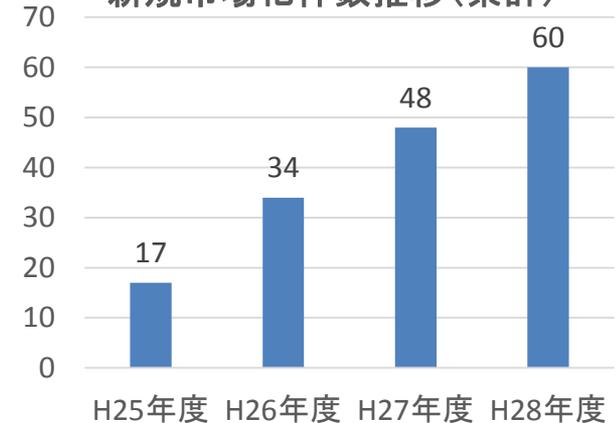
### ◇ 新規市場化件数の進捗

- ・ H28年度当初計画(累積)66件に対し、見通し60件
- ・ 対計画でやや未達も、每期順調に伸長

### ◇ 開発事例 【“お客様にうれしさ”を提供する製品群】

- ・ 建設資材: クランプ用高加工590MPa級ZAM (省工程・加工性向上)
- ・ 建材: ラミネート用クロムフリー処理ZAM (環境に優しいクロムフリー製品)
- ・ 自動車: 排気部材フランジ用厚板フェライト系ステンレス鋼 (コスト低減・軽量化)
- ・ 機械: 高強度カーボンスチールベルト用鋼 (高強度化・広幅ニーズ対応)

新規市場化件数推移(累計)



# 24号中計の進捗状況

## グループ一体での川下戦略の展開

### ◇ 日新製鋼建材 平成28年4月1日新発足

国内の建築需要は長期的な減少傾向。ただし、住宅市場では他素材から金属建材への切り替え余地あり

#### 【戦略ターゲットを住宅市場に設定】

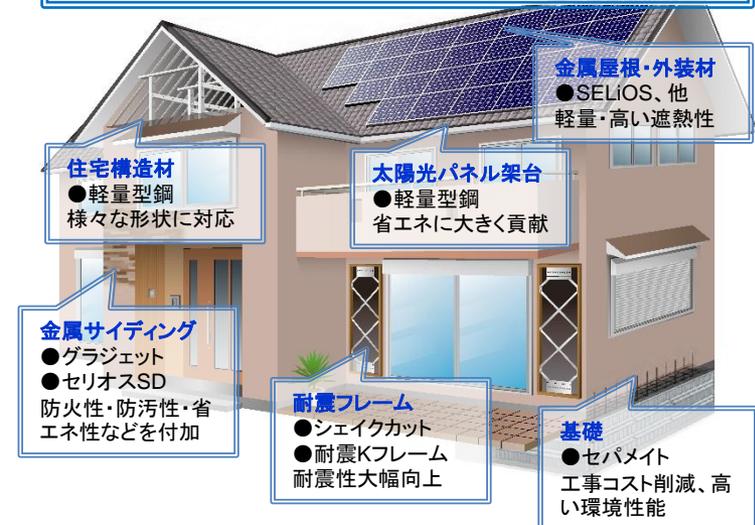
- ・ 経営資源集中による競争力強化
- ・ 市場密着型の事業体制による鉄鋼需要開発の推進

### ◇ 日新製鋼ステンレス鋼管 生産集約完了

- ・ 本年7月に衣浦工場を閉鎖。尼崎工場に生産を集約（要員合理化 50名（合理化率 約26%）、生産効率向上）

- ・ 製販一体化によるお客様対応力の強化と高度なレーザー溶接技術をベースとした拡販を推進

【発足目的】 家一軒建てるのに必要な金属建材製品を丸ごと開発・供給する



集約効果4億円/年  
+ α ( 拡販効果 )

# 24号中計の進捗状況

## グローバル事業体制の構築

### ◇ 北米ZAM

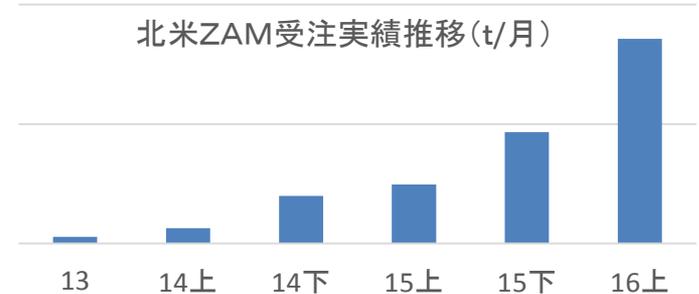
- ・ 2013年11月よりWheeling-NisshinでZAMの生産・販売を開始。当社も技術面や市場開拓面で積極的に協力
- ・ 客先での性能評価が高く、自動車部品、建材、畜舎、農業用資材等の受注は着実に増加

### ◇ 中国特殊鋼事業(日新華新頓精密特殊鋼有限公司)開業

- ・ 本年7月14日 設備起動式(生産開始)
- ・ 本年10月25日 開業式



北米ZAM受注実績推移(t/月)



※本年度1,000t/月超達成(用途別:自動車3割、その他7割)



開業式(2016年10月25日開催)

日系・欧米系自動車部品メーカーのニーズに対応

# 配当および今後の取り組み

## 配当

### ◇ H28年度配当金

- ・ 第2四半期末(中間配当)に関しては、収益状況等を総合的に勘案した結果、誠に遺憾ながら無配
- ・ 期末配当に関しては未定。配当予想額の開示が可能になり次第速やかに開示

### 【利益配分に関する基本方針】

連結業績に応じた適切な剰余金の配当を実施していくことを基本に、企業価値向上に向けた今後の事業展開に必要な内部留保の確保および今後の業績見通しを踏まえつつ、安定的な株主還元を実施

## 今後の取り組み

24号中計の最終年度として各施策の総仕上げおよびその効果による財務体質の改善

周南製鋼集約効果によるステンレス事業のコスト競争力強化

合理化・総コスト削減活動の推進と施策効果の最大化

各戦略投資の利益最大化(塗装建材事業・呉新精錬炉(LF)・中国特殊鋼事業)

# 新日鐵住金(株)による当社子会社化等の契約締結等について

2016年5月13日 新日鐵住金株式会社による当社子会社化等に関する契約締結

## 子会社化等の理由について

### ◇ 両社を取り巻く事業環境

- ・ 中国の過剰生産と余剰鋼材の輸出等による各地の鋼材市況の低迷、通商問題の増加
- ・ 人口減少の影響等による国内鋼材消費の縮小
- ・ 中国や東南アジア沿岸部における最新鋭設備の本格稼働、海外ステンレスメーカーの生産能力増強



国内外で競争が一層激化。収益力の強化が両社グループの喫緊の課題

### ◇ 当社の取組みと本件の経緯

持続的な利益成長の実現に向けて当社独自に事業構造改革の検討を推進

検討

コア製品への経営資源の集中

鉄源工程の合理化  
(高炉1基体制への移行)



事業構造改革の実施が当社の  
企業価値向上に資すると判断

## 子会社化等の理由について

2015年8月、新日鐵住金に協力を要請



**新日鐵住金**

NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

鉄源工程合理化に伴い  
不足する鋼片の供給



**日新製鋼**



継続協議の結果、以下の2点で両社の認識が一致

競合関係にある当社への継続的な鋼片供給を実施するためには当社の子会社化が必要

世界で勝ち残るためには単なる鋼片供給にとどまらず、子会社化による相乗効果の創出が不可欠

◇ 両社が目指す姿

**新たに当社を加えた新日鐵住金グループとして  
『総合力世界No.1の鉄鋼メーカー』の地位を強化**

両社経営資源の持ち寄り、連携施策の推進

**両社で200億円/年以上の相乗効果を目指す**

操業技術、設備・保全等の  
ベストプラクティス追求

原料、資機材等の  
調達コスト削減

グループ全体での  
効率的な生産の追求

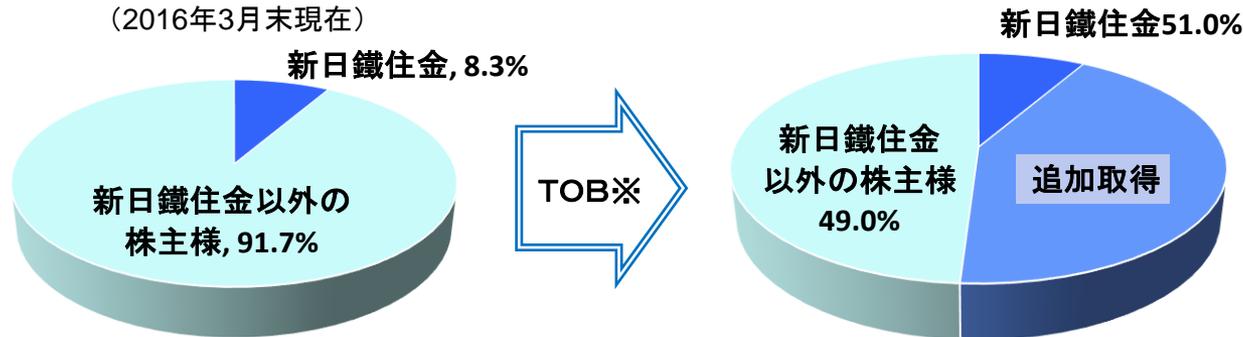
グループ会社の  
効率化、他

# 子会社化等の内容について

公開買付けおよび第三者割当増資の組み合わせにより、新日鐵住金が当社の発行済み株式総数の51%を所有するために必要な当社株式の取得を目指す

## ◇ 公開買付け(TOB)

(2016年3月末現在)



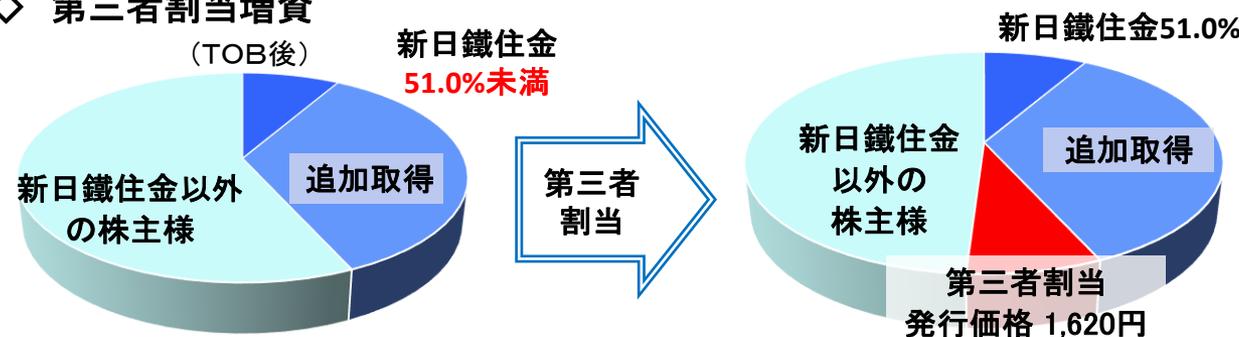
TOB 予定価格	1,620円
買取予定数 上限	4,689万6,300株
買取予定数 下限	なし

※国内外の競争法上必要な手続き完了等の条件が充足された場合、速やかに実施

## TOBの結果、51%の株式所有割合に不足が生じた場合

## ◇ 第三者割当増資

(TOB後)



不足分について補完的に当社が第三者割当を実施

※TOBのみで新日鐵住金の所有割合が51%に到達した場合、第三者割当増資の払い込みは行われ~~ない~~。

# 平成28年度 第2四半期決算の概要



# 平成28年度第2四半期決算

## 概況

- ✓ 再生産可能な販売価格への改善に取り組むも、上半期は原料の適用市況下落を受け、売上高は2,517億円（対前年同期▲250億円）。
- ✓ 収益は5月に呉製鉄所で発生した定期修繕後の立ち上げ遅れや在庫評価損などにより、経常利益は10億円（対前年同期▲44億円）、在庫評価除く実力ベース経常利益は70億円（同▲34億円）。
- ✓ ステンレスの荷動きは上向きつつあり、足元の原料価格の上昇を踏まえ、国内店売り向けニッケル系について8月契約分より1万円/トンの値上げを実施。ただし、上期の段階では経常利益は▲35億円（対前年同期+5億円）、在庫評価除く実力ベース経常利益0億円（同+10億円）となった。

# 平成28年度第2四半期決算

	No	H28年度			H27度	H28年度
		4-6月 (実績) a	7-9月 (実績) b	上期 (実績) c	上期 (実績) d	上期 (前回予想) e
売上高	1	1,194	1,323	2,517	2,767	2,520
営業利益	2	2	40	42	63	25
経常利益	普通鋼・特殊鋼	3	12	33	45	94
	ステンレス	4	▲ 25	▲ 10	▲ 35	▲ 40
	計	5	▲ 13	23	10	54
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6	▲ 15	15	0	20	▲ 35

差異		
① c-d	② b-a	③ c-e
▲ 250	129	▲ 3
▲ 21	38	17
▲ 49	21	5
5	15	25
▲ 44	36	30
▲ 20	30	35

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	▲ 15	▲ 10	▲ 25	▲ 20	▲ 15
	ステンレス	8	▲ 15	▲ 20	▲ 35	▲ 30	▲ 55
	計	9	▲ 30	▲ 30	▲ 60	▲ 50	▲ 70

▲ 5	5	▲ 10
▲ 5	▲ 5	20
▲ 10	0	10

## <実カベース>

経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	27	43	70	114	55
	ステンレス	11	▲ 10	10	0	▲ 10	▲ 5
	計	12	17	53	70	104	50

▲ 44	16	15
10	20	5
▲ 34	36	20

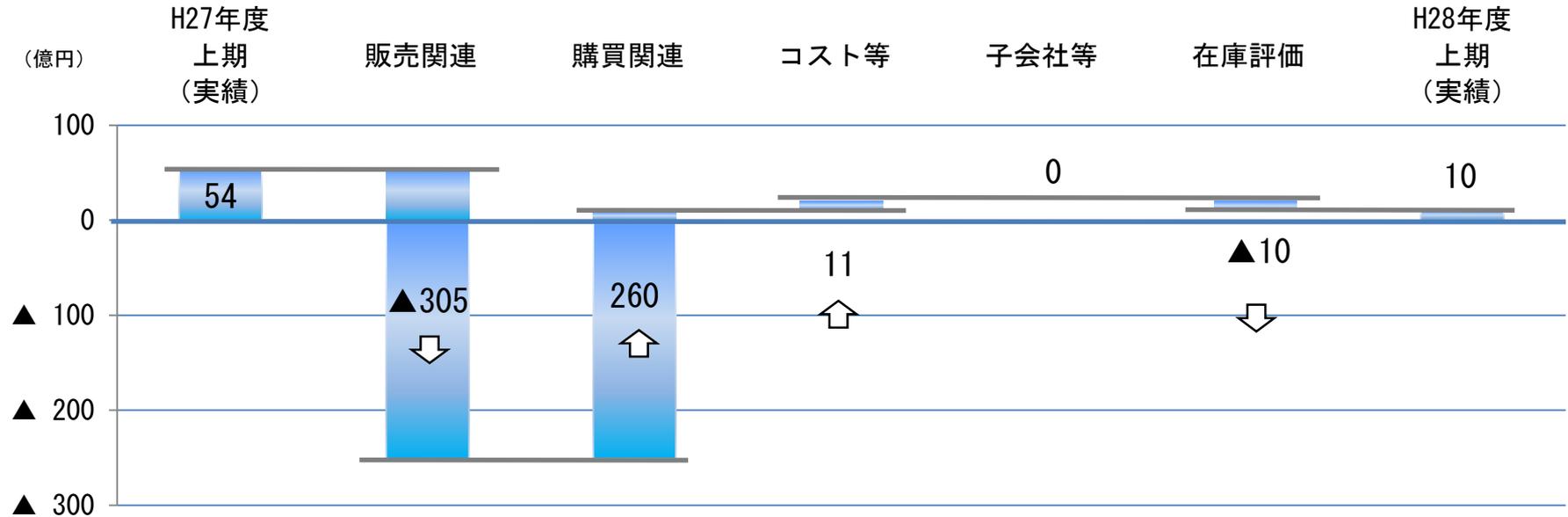
# 平成28年度第2四半期諸元

		No	H28年度			H27度	H28年度
			4-6月 (実績) a	7-9月 (実績) b	上期 (実績) c	上期 (実績) d	上期 (前回予想) e
粗鋼生産量 (万ト)	普通鋼・特殊鋼	1	68	79	147	158	151
	ステンレス	2	18	17	35	34	36
	計	3	86	96	182	192	187
販売数量 (万ト)	普通鋼・特殊鋼	4	70	79	149	150	150
	ステンレス	5	12	15	27	25	28
	計	6	82	94	176	175	178
鋼材平均単価 (千円/ト)		7	109	106	108	122	107
輸出比率 (金額ベース, %)		8	15	15	15	16	15
輸出為替レート (円/ドル)		9	108	102	105	122	106

差異		
① c-d	② b-a	③ c-e
▲ 11	11	▲ 4
1	▲ 1	▲ 1
▲ 10	10	▲ 5
▲ 1	9	▲ 1
2	3	▲ 1
1	12	▲ 2
▲ 14	▲ 3	1
▲ 1	0	0
▲ 17	▲ 6	▲ 1

# 経常利益差異内訳

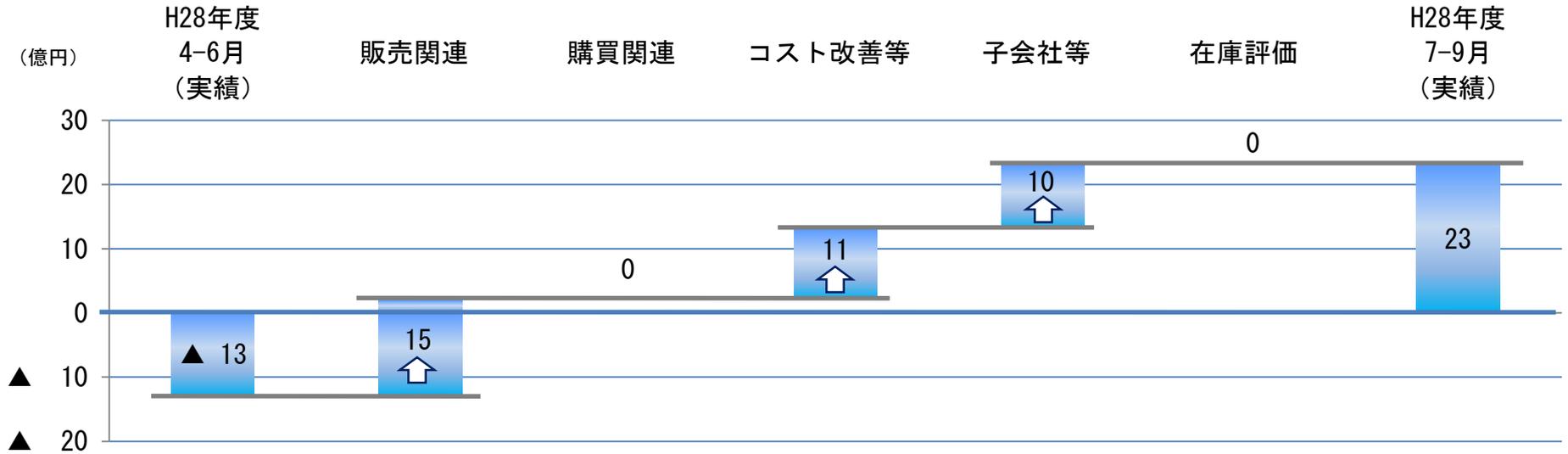
## H27年度上期(実績):H28年度上期(実績)



H27年度上期(実績)		54	変動要因	▲ 40
変動要因	販売関連	▲ 305	価格差▲250、数量構成差▲15、輸出為替差▲40	▲ 145
	購買関連	260	鉄鉱石 45、石炭 15、ニッケル原料 60、カム 20、油類 20、輸入為替差 60	135
	コスト等	11	合理化、定期修繕影響等	30
	子会社等	0		▲ 10
	在庫評価	▲ 10	▲50→▲60 (内ステンレス ▲30→▲35)	▲ 5
計		▲ 44		5
H28年度上期(実績)		10		▲ 35

# 経常利益差異内訳

## H28年度4-6月(実績):H28年度7-9月(実績)

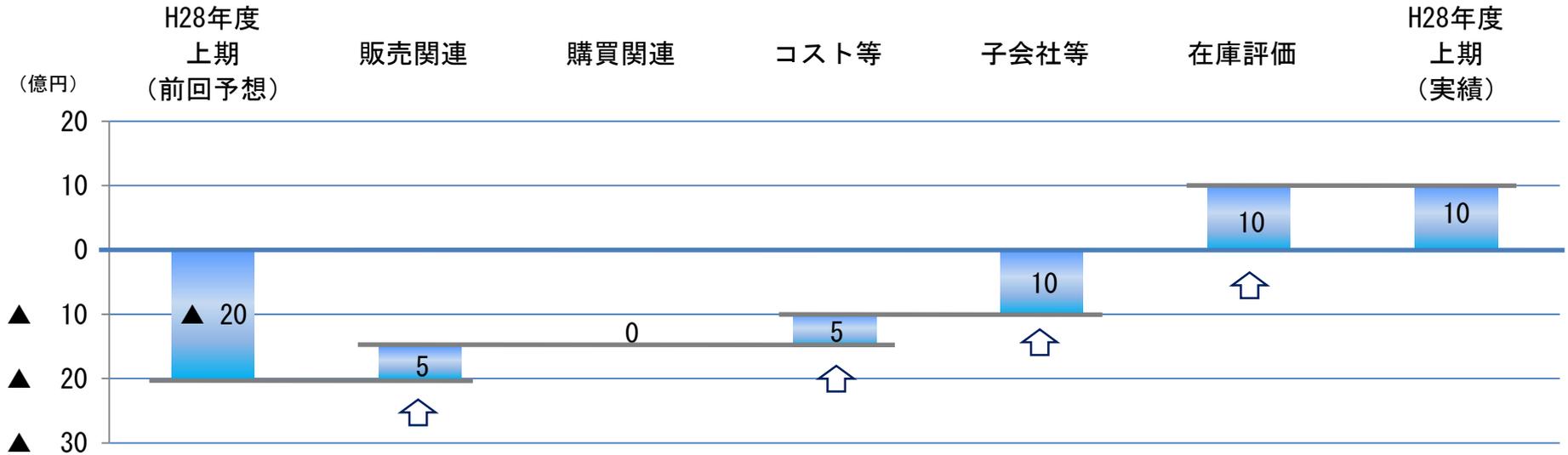


H28年度4-6月 (実績)		▲ 13	変動要因	▲ 25
変動要因	販売関連	15	数量構成差 35、価格差▲15、輸出為替差▲5	10
	購買関連	0	石炭▲5、ニッケル原料▲10、ｸﾛﾑ 5、輸入為替差 15	5
	コスト等	11	定期修繕影響等	0
	子会社等	10		5
	在庫評価	0	▲30→▲30 (内ステンレス ▲15→▲20)	▲ 5
計		36		15
H28年度7-9月 (実績)		23		▲ 10

(億円) (内ステンレス)

# 経常利益差異内訳

## H28年度上期(前回予想):H28年度上期(実績)



H28年度上期 (前回予想)		▲ 20	変動要因	▲ 60
変動要因	販売関連	5	価格差 20、数量構成差▲10、輸出為替差▲5	▲ 5
	購買関連	0		0
	コスト等	5		0
	子会社等	10		10
	在庫評価	10	▲70→▲60 (内ステンレス ▲55→▲35)	20
計		30		25
H28年度上期 (実績)		10		▲ 35

# 貸借対照表 (H28年9月末)

(億円)

		対H28/3末		主な内訳
現預金	289	▲	24	
売上債権	679	▲	96	売上減少
たな卸資産	1,242	▲	5	
その他流動資産	215	▲	40	
有形・無形固定資産	2,843		54	
投資等	1,531	▲	168	持分会社に係る為替換算調整
資産合計	6,801	▲	280	
有利子負債	2,683	▲	112	
その他の負債	2,033	▲	73	
負債合計	4,716	▲	185	
資本金・資本剰余金	1,063		-	
利益剰余金	755	▲	26	配当▲27
自己株式	▲ 5	▲	0	
その他の包括利益累計額	154	▲	122	為替換算調整▲130
非支配株主持分	117		54	
純資産合計	2,084	▲	95	
負債・純資産合計	6,801	▲	280	

# 平成28年度業績予想

## 概況

- ✓ 販売面では、在庫水準や需要分野の動向と製造側の負荷バランスを見極めつつ、採算重視の販売活動を推進。販売数量全体としては減少を見込むものの、売上高は5,160億円と7月公表時から据え置き。
- ✓ 収益面では原料炭価格の急騰に伴う大幅なコストアップが見込まれることから、経常利益は75億円（対7月公表▲40億円）、在庫評価除く実力ベース経常利益は105億円（同▲90億円）に修正。
- ✓ ステンレスの経常利益は▲20億円（対7月公表+15億円）、在庫評価除く実力ベース経常利益は10億円（同▲5億円）。  
全般的に需要は底堅く環境面の改善が続くことが期待されるなか、原料価格の上昇を踏まえ、国内店売り向けニッケル系について11月契約分より1万円/トンのもう一段の値上げを実施  
（8月契約分からとあわせ、累計2万円/トンの値上げを実施）。

# 平成28年度業績予想

(億円)

	No	H28年度			H28年度	H27年度	差異			
		上期 (実績) a	下期 (予想) b	(予想) c	(前回予想) d	(実績) e	① b-a	② c-d	③ c-e	
売上高	1	2,517	2,643	5,160	5,160	5,470	126	0	▲ 310	
営業利益	2	42	68	110	170	100	26	▲ 60	10	
経常利益	普通鋼・特殊鋼	3	45	50	95	150	172	5	▲ 55	▲ 77
	ステンレス	4	▲ 35	15	▲ 20	▲ 35	▲ 110	50	15	90
	計	5	10	65	75	115	62	55	▲ 40	13
親会社株主に帰属する当期純利益	6	0	30	30	75	▲ 66	30	▲ 45	96	

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	▲ 25	25	0	▲ 30	▲ 45	50	30	45
	ステンレス	8	▲ 35	5	▲ 30	▲ 50	▲ 90	40	20	60
	計	9	▲ 60	30	▲ 30	▲ 80	▲ 135	90	50	105

## <実カベース>

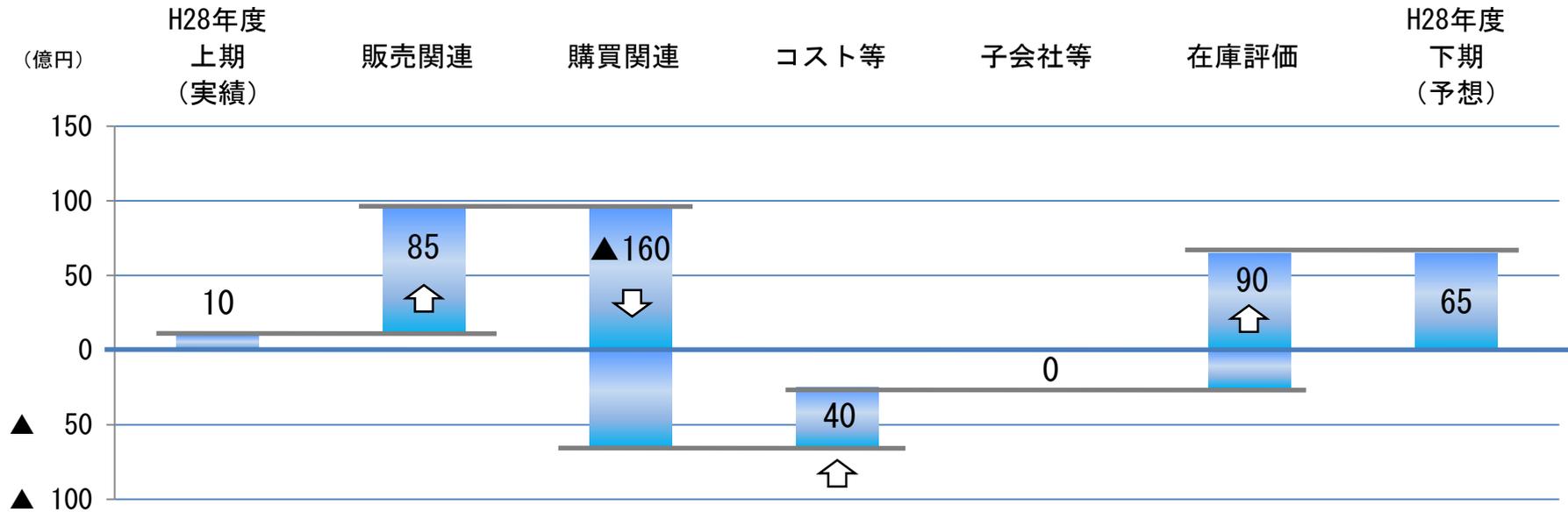
経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	70	25	95	180	217	▲ 45	▲ 85	▲ 122
	ステンレス	11	0	10	10	15	▲ 20	10	▲ 5	30
	計	12	70	35	105	195	197	▲ 35	▲ 90	▲ 92

# 平成28年度業績予想諸元

		No	H28年度			H28年度	H27年度	差異		
			上期 (実績) a	下期 (予想) b	(予想) c	(前回予想) d	(実績) e	① b-a	② c-d	③ c-e
粗鋼生産量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	1	147	150	297	314	314	3	▲ 17	▲ 17
	ステンレス	2	35	34	69	71	65	▲ 1	▲ 2	4
	計	3	182	184	366	385	379	2	▲ 19	▲ 13
販売数量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	4	149	153	302	307	306	4	▲ 5	▲ 4
	ステンレス	5	27	29	56	59	52	2	▲ 3	4
	計	6	176	182	358	366	358	6	▲ 8	0
鋼材平均単価 (千円/トン)		7	108	112	110	109	117	4	1	▲ 7
輸出比率 (金額ベース, %)		8	15	14	15	15	15	▲ 1	0	0
輸出為替レート (円/ドル)		9	105	105	105	106	120	0	▲ 1	▲ 15

# 経常利益差異内訳

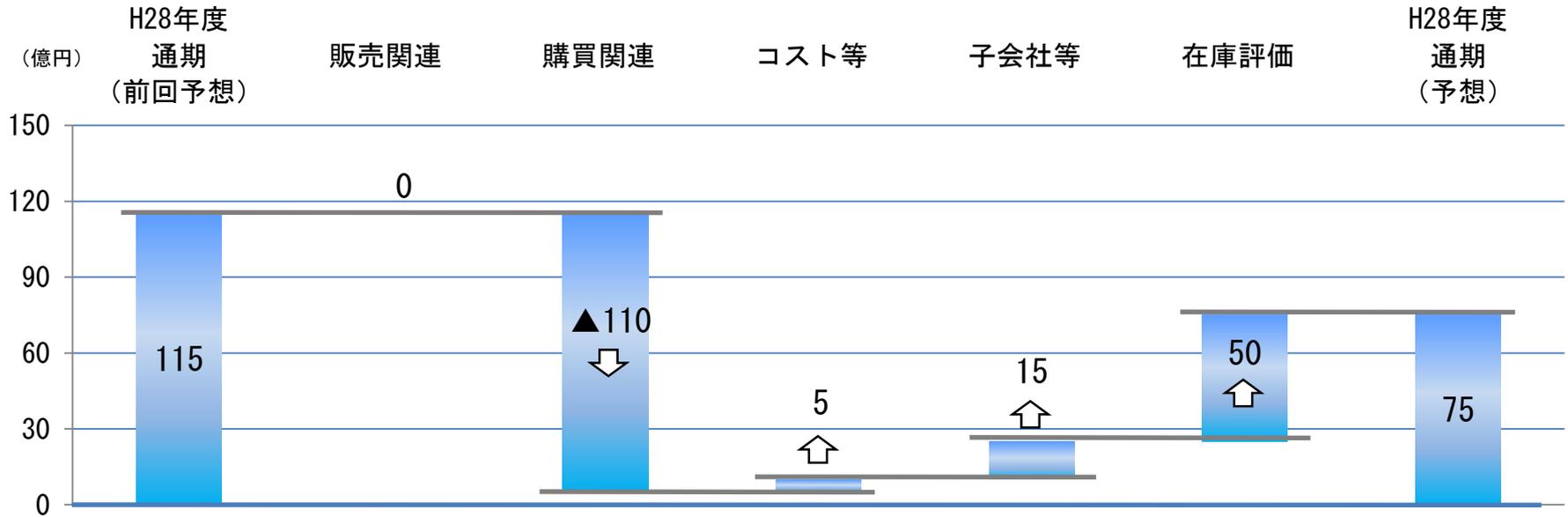
## H28年度上期(実績):H28年度下期(予想)



H28年度上期 (実績)		10	変動要因	▲ 35
変動要因	販売関連	85	価格差 65、数量構成差 20	20
	購買関連	▲ 160	鉄鉱石▲30、石炭▲105、ニッケル原料▲20、ケム▲15、油類▲15、輸入為替差 35	▲ 20
	コスト等	40	定期修繕影響等	5
	子会社等	0		5
	在庫評価	90	▲60→30 (内ステンレス▲35→5)	40
計		55		50
H28年度下期 (予想)		65		15

# 経常利益差異内訳

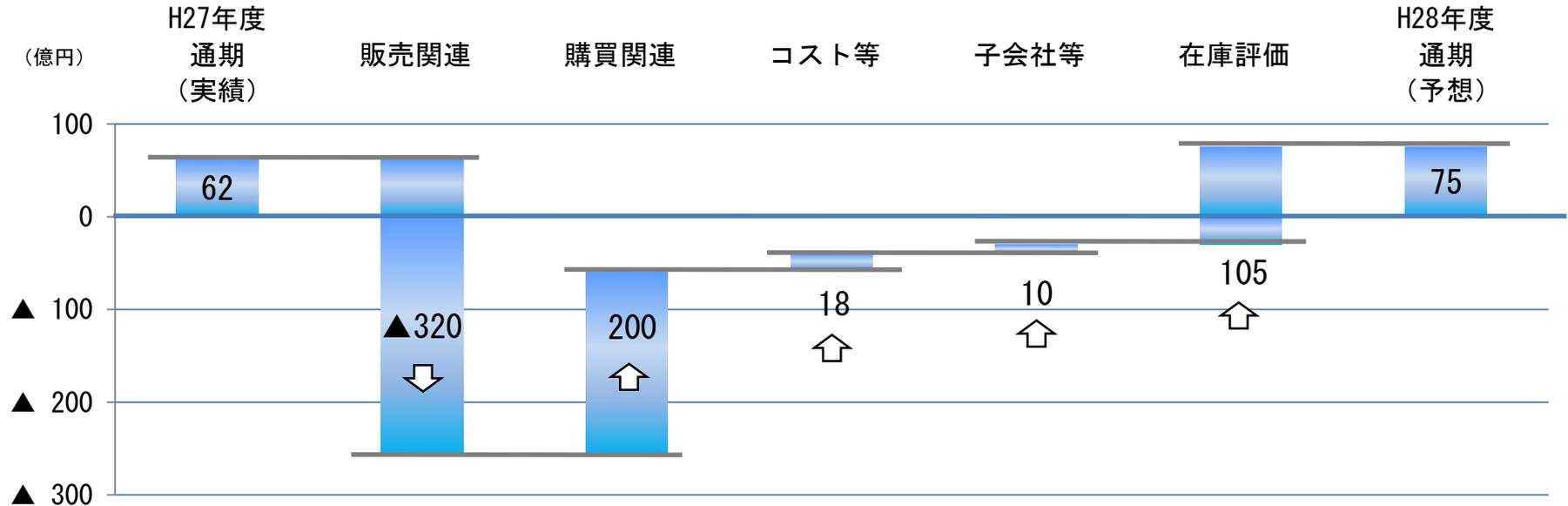
## H28年度通期(前回予想):H28年度通期(予想)



		(億円)	(内ステンレス)
H28年度通期(前回予想)		115	▲ 35
変動要因	販売関連	0	▲ 5
	購買関連	▲ 110	▲ 10
	コスト等	5	0
	子会社等	15	10
	在庫評価	50	20
計		▲ 40	15
H28年度通期(予想)		75	▲ 20

# 経常利益差異内訳

## H27年度通期(実績):H28年度通期(予想)



H27年度通期 (実績)		62	変動要因	▲ 110
変動要因	販売関連	▲ 320	価格差▲245、輸出為替差▲75	▲ 140
	購買関連	200	鉄鉱石 30、石炭▲90、ニッケル原料 55、カム 25、油類 15、輸入為替差 175	155
	コスト等	18	合理化等、定期修繕影響等	10
	子会社等	10		5
	在庫評価	105	▲135→▲30 (内ステンレス ▲90→▲30)	60
計		13		90
H28年度通期 (予想)		75		▲ 20

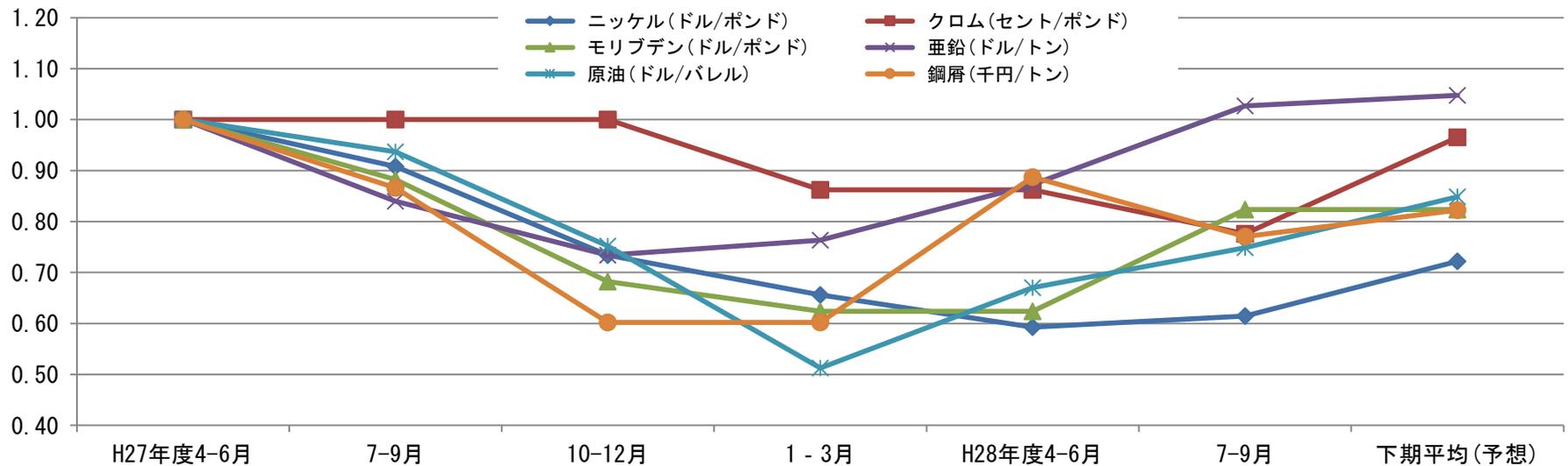
(ご参考)  
主要データ



# 購買市況(適用ベース)

	H27年度							H28年度				
	上期			下期			平均	上期			下期	平均(予想)
	4-6月	7-9月	平均	10-12月	1-3月	平均		4-6月	7-9月	平均		
ニッケル(ドル/ポンド)	6.51	5.91	6.21	4.78	4.27	4.53	5.37	3.86	4.00	3.93	4.70	4.32
クロム(セント/ポンド)	116.0	116.0	116.0	116.0	100.0	108.0	112.0	100.0	90.0	95.0	112.0	103.5
モリブデン(ドル/ポンド)	8.5	7.5	8.0	5.8	5.3	5.6	6.8	5.3	7.0	6.2	7.0	6.6
亜鉛(ドル/トン)	2,195	1,844	2,020	1,611	1,676	1,644	1,832	1,915	2,254	2,085	2,300	2,192
原油(ドル/バレル)	58.9	55.2	57.1	44.3	30.2	37.3	47.2	39.5	44.1	41.8	50.0	45.9
鋼屑(千円/トン)	23.1	20.0	21.6	13.9	13.9	13.9	17.7	20.5	17.8	19.2	19.0	19.1

購買市況の推移 (H27年度4-6月を1.00)

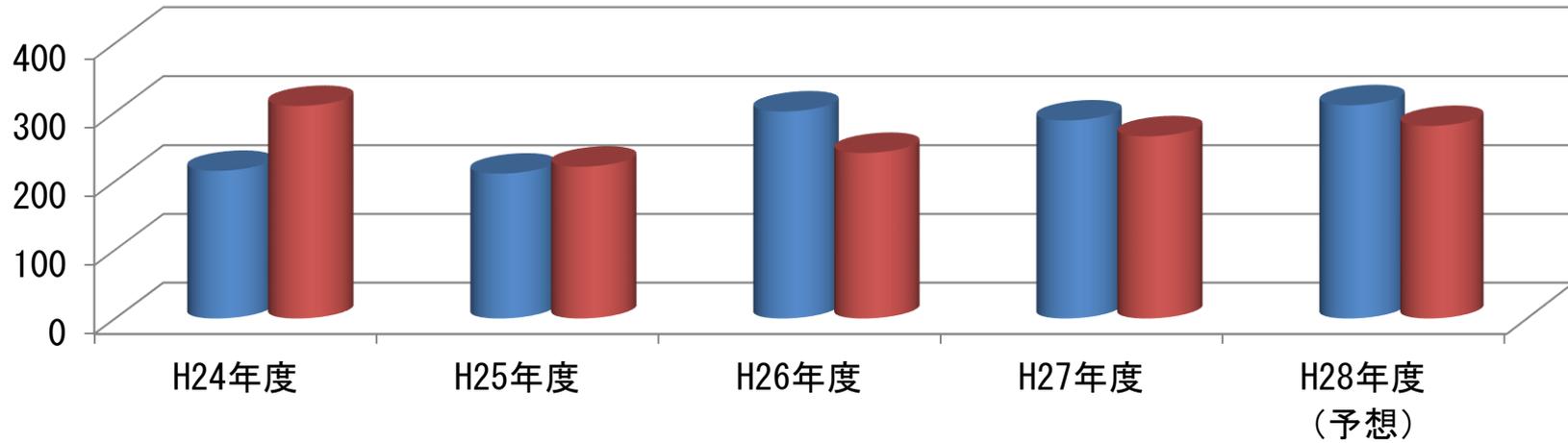


# 設備投資・減価償却費

(億円)

■ 設備投資（有形のみ／検収ベース）

■ 減価償却費



(億円)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度 (予想)
設備投資	215	211	301	288	310
減価償却費	309	221	241	265	280

※設備投資額は有形のみ／検収ベース

# 有利子負債・ネットD/Eレシオ（格付けベース）



	H27/3末	H28/3末	H28/9末
手許預金 (億円)	263	314	289
有利子負債 (億円)	2,898	2,795	2,683
ネットD/Eレシオ	1.00	1.17	1.22
〃 (格付けベース) ※	0.86	0.98	1.01

※ 日本格付研究所の格付評価上、資本性が認められるハイブリッドローンについて、元本の50%を資本とみなした場合のネットD/Eレシオ  
 (H27/3末、H28/3末およびH28/9末について、400億円の50%をそれぞれ資本に算入)